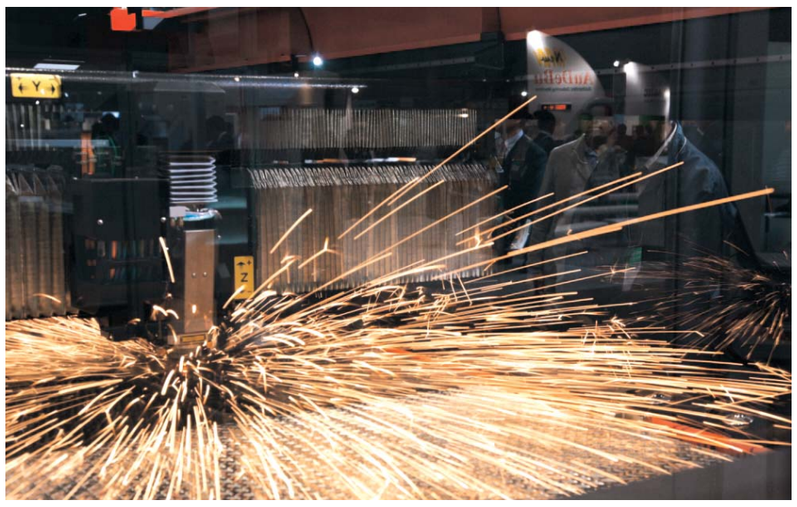
# MF−Tokyo2011 プレス・板金・フォーミング展

日本鍛圧機械工業会と日刊工業新聞社共催の「MF−Tokyo2011 プレス・板金・フォーミング展」が3日から6日までの4日間、東京・有明の東京ビッグサイト（東4−6ホール）で開催される。鍛圧塑性加工技術の総合展示会として、日本を代表する板金機械、プレス機械などの有力メーカーが一堂に会する。「〝日本を元気に、そして世界を！〟−世界最新のエコ鍛圧機械とエコ塑性加工技術を提案します。−」をテーマに、国内外から148社・団体（891小間）が出展する。入場料は1000円。招待券持参者と事前登録者は無料。開場時間は10時から17時まで。



金属加工機械は鍛圧機械と工作機械に区分され、鍛圧機械業界は日本とドイツのメーカーで大きく二分される。今回の「MF−Tokyo2011」には日本とドイツを含めて、世界の鍛圧機械有力メーカーが集まることから、価値のある情報発信の場となる。

環境に優しい無駄のない鍛圧塑性加工技術は、各分野から注目を集めている。同展ではプレス機械をはじめ、レーザー加工機、プラズマ加工機を含む板金機械、フォーミング機械などの鍛圧機械とその周辺機器や加工技術が集結する。このほか、日本塑性加工学会によるセミナーの開催や、大学研究室や出版社などが集まるゾーンに「学びと産学交流の空間」を設け、最新の鍛圧塑性加工技術を多角的に紹介する。

製品の展示だけでなく、シンポジウムと講演会、セミナーが数多く用意されている。4日14時から川田康夫トヨタ自動車常務役員が「トヨタ自動車のモノづくり革新と鍛圧技術の果たす役割」をテーマに基調講演。5日14時から「Hondaが目指す〝カッコよくて凄く軽い〟車造りへの挑戦!!」をテーマに、田岡秀樹ホンダエンジニアリング執行役員が特別講演を行う。

3日14時からの「MF−Tokyo2011シンポジウム」では、「技術革新−サーボプレスの現状と今後の期待」と「鍛圧業界のグローバル化−鍛圧関連企業の海外との連携」の2テーマに分けてパネル討論を行う。

日本塑性加工学会セミナーは最先端の塑性加工技術の研究成果や多彩な塑性加工法の最前線の現状と将来性など、さまざまな観点から解説する。出展者テクニカルセミナーは鍛圧機械の国内外を代表する出展企業が、最新の製品・加工技術を紹介する。このほか、エコな製品製作の成果を鍛圧機械とともに顕彰する「MF技術大賞」の受賞製品も展示される。

同展の副題は「日本を元気に、そして世界を！」。東日本大震災に伴い、被災地の復興の一助となるべく、展示会を盛り上げて行こうという強い願いを込めた。「日本を元気に、そして世界を！」のバッジを作製し、展示会場で1個1000円で販売する。岩手、宮城、福島の3県の災害復旧を支援するため、バッジの売り上げと入場料を全額寄付する。

鍛圧ソリューションが一堂に結集することで、来場者にとっても、技術交流や商談の場、さらには技術革新の道しるべとなりそうだ。

東京ビッグサイト／6日まで

## MF-Tokyo 2011 プレス・板金・フォーミング展

“日本を元気に、そして世界を!”
−世界最新のエコ鍛圧機械とエコ塑性加工技術を提案します。−

### ごあいさつ

日本鍛圧機械工業会
代表理事会長
**高瀬 孔平**

日本鍛圧機械工業会は、鍛圧塑性加工技術展示会「MF−Tokyo2011 プレス・板金・フォーミング展」を8月3日から6日の4日間、東京ビッグサイト東4−6ホールにおいて開催いたします。この展示会は鍛圧機械であるプレス機械や板金機械、フォーミング機械と塑性加工技術を合わせた「鍛圧塑性加工の総合技術展」として、モノづくりの未来へ向けた新しい道を探ることを目指しております。

## 日本の製造業を元気に

東日本大震災からの復興を祈念して「日本を元気に、そして世界を！」を副題として掲げました。東日本の製造業が元気になり、鍛圧機械産業が世界の生活水準向上に役立って、日本だけでなく世界も元気にしたいとの思いを込めました。このため東日本大震災義援金バッジを1000円で販売し、災害のひどかった岩手・宮城・福島の3県に全額寄付いたします。500万円を目標としています。

機械業界初のMFエコマシン認証機械は2010年に1321台販売し、その平均省エネ率は00年生産機に対して49・0%に達しました。

出展社数小間数など前回より約3割アップして開催しており、海外からは10カ国30社167小間の出展と6海外工作機械団体が集まり、関係団体責任者のシンポジウムやトヨタ自動車の川田康夫常務役員とホンダエンジニアリングの田岡秀樹執行役員の特別講演のほか、日本塑性加工学会テクニカルセミナー24講座が開催され、大学からは20研究室ブースで研究発表が行われます。さらに出展者テクニカルセミナー46講座を開催いたします。

この展示会がお客さまと出展者の技術交流を通じ、相互のヒント知識の向上の場として、活用いただき、具体的な成果が上がるよう願ってやみません。